

大島地区学校適正配置に関するアンケート（教職員対象） 結果報告

資料 1

一、アンケートの概要

1. 実施期間
令和8年9月1日（火）～令和8年9月8日（火）
2. 実施目的
「大島地区学校適正配置に関するアンケート（保護者対象）において、教職員対象のアンケートを実施してほしいというご意見がありましたため、教育現場で実際に働く人の声を把握することを目的に実施しました。
様々な学校を知る教職員から、両小学校のよいところなどをお聞きし、統合校の魅力づくりの参考にするとともに、統合前後には、できる限り教職員へのサポートを行えるよう検討いたします。
アンケートのとおり、学校にはそれぞれ個性がありますが、教職員及び教育委員会は、その学校環境にに応じてよりよい教育やカリキュラムを考えて参ります。
協議会委員の皆様には、今後の学校のあり方や魅力化について検討する上で、ご参考にしていただければと思います。
3. 実施対象校
吉海小学校・宮窪小学校・大島中学校（中学校は問1を除く）

二、設問への回答について

問1 小学校が統合された場合、あたらしい学校において、【教職員にとって】どのようなことを期待しますか。（自由記述）〔例：校務負担の平準化、複数教員による指導ができる、など〕

回答（要約）
人員不足の解消
教職員が増えることによる校務分掌の平準化
複式学級解消による校務の負担軽減
学級あたりの人数が10人を超えることで広がりのある授業が展開できること。
児童数が増えることで、練りあいの授業がしやすくなること。
中学校教員の訪問授業による授業時数の軽減
複式学級の解消、教職員の充実、大島全体で児童を見守る体制、大島中学校と認定こども園との園・小・中の一貫した交流
複式学級が解消されて教育課程が組みやすくなり、時間割の複雑さが解消されること。教員の一人にかかる負担が軽減され、時間外勤務時間の減少につながる。上記のようなことが実現されれば、教員が子どもたちに関わる時間が増えたり、心に余裕を持って接することができるようになること。
複数教員による指導で、更に手厚くきめ細かな指導ができる。
吉海、宮窪の両校のノウハウを共有し、よりよい教育カリキュラムが構築できる。
子どもたちの教育の充実
校務負担は変わらない。（児童数は増えるが、教員の人数は変わらないため）
教職員定数が現在と変わらないので、現状を維持できると良い。

問2 統合しても残したい貴校の良いところや、大島地区の学校の魅力化・特色化についてなど、今回の統廃合全般に対して、ご意見をお聞かせください。（自由記述）

回答（要約）
園・小・中の連携が強化しており、安心して12年間子どもを預けられる島であってほしい。卒業生だけでなく、保護者の方もよく吉海小学校に立ち寄ってくれる。生徒、保護者の方とも、吉海小学校を頼ってくれている。小学生の子を持つ親として、卒業した学校に立ち寄って心を癒して帰宅することができる環境は、理想的である。 また、吉海小学校は古いが、それも味となり、良さだと思う。吉海小学校の保護者や地域の方は、学校の修繕に協力的で、修理や奉仕活動に沢山参加してくださる。古いからこそ得られる、大切にしたい力である。
小規模校の良さを生かした、きめ細かな指導や児童同士の温かな人間関係は、統合しても残していきたい。統合によって、これまでは人数によりできなかった活動も制限がなくなり、関わる人の数も自ずと増えるため、子どもたちの視野は広がると思う。難しいとは思いますが、全員ができるだけ、少しでも納得するような結果になれば良いと思う。
資料「大島地区 小学校の教育活動」を取捨選択して活動できると良い。
地域との連携
落ち着きがある学校なので、この学校の今の雰囲気を保っていつてもらいたい。それぞれの地域に学校があり、地域の方々とともに子供たちを育てていくことが理想であるが、これだけ少子化が進むと統合もやむを得ない気がする。しかし、無くなる方の地域の方の心情を思うと心が痛い。
どちらを選んでも利点がある。中学校が吉海にあって宮窪について学ぶことはできている。大島には素晴らしい歴史や文化がたくさんあるので、協力していけばどこで学んでも大丈夫だと思う。
村上海賊に関する学習 水軍太鼓 島四国など 大島地域の伝統や特色を生かした学習
教員の責務は、在籍する子どもたちのために、よりよい教育環境とカリキュラムを整えることにある。吉海・宮窪両小学校の強みや魅力、利点をしっかりと理解した上で、両校の教職員で情報交換・情報共有を重ね、知恵を絞りながらよりよい教育環境とカリキュラムを整えていきたい。教育委員会の皆様や吉海・宮窪両地域の地域住民の皆様、PTAの皆様におかれましては、ご指導やご意見、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。
比較的新しい校舎、地域のよさを感じる遠足や体験活動
学校と保護者、地域とのつながりの強さを、統合後も残していただきたい。地域に支えられながら教育活動を行ってきたことは本校の大きな特色であり、統合に伴ってこのような良さが薄れてしまわないよう配慮してほしい。 一方で、両校それぞれの特色を大切にすることは重要だが、それらをすべて継承しようとするあまり、行事や取組が過度に増加することには慎重であるべき。現在でも教育活動は非常に充実しており、児童にとっても教職員にとっても負担の大きい状況が見られる。統合後は、特色の継承と教育活動の適正化とのバランスを十分に検討していただきたい。
また、すでに中学校は統合を経験していることから、その際に培われた運営上の知見や文化も参考にしながら検討を進めることが有効と考える。今後、義務教育学校への移行の可能性も見据えるのであれば、小学校と中学校の教育文化や運営方針の連続性を意識しておくことも重要と思われる。学校間の文化的な違いが大きい場合、今回のような統合協議においても議論や調整に多くの時間を要することが考えられるため、将来を見据えた視点での検討を期待する。
大島全体、とても魅力のある島だと感じている。仲良く一つになれることを期待したい。
毎週金曜日朝の縦割り班活動（遊び）などの、縦のつながり。靴そろえなどの伝統。